



みんなで考える徳島の環境 ～毎月ゼロのつく日は「とくしま環境の日」～

寄稿：酒巻英紀（とくしま環境県民会議事務局）

【地球にやさしいこと。環境によいこと。「とくしま環境の日」からはじめてみませんか。】

1. 「とくしま環境の日」の趣旨

徳島県では、地球温暖化対策をさらに推し進めるため、中四国では初めてとなる「徳島県地球温暖化対策推進条例」を平成21年4月から施行しているところです。

この条例の施行を契機として、全ての県民の方に、地球温暖化問題をはじめとする環境問題についての考えをさらに深めていただき、徳島の美しい海、多様に連なる山々、豊かな河川など自然あふれる故郷とくしまを後生に引き継いでいくため、それぞれの活動の中で環境問題の解決に取り組んでいただくキッカケとなるよう「とくしま環境の日」を定めました。

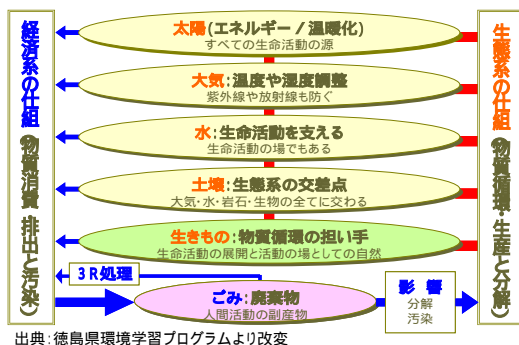
2. 「とくしま環境の日」と「月ごとのテーマ」

これまで「ノーカーデー」として取り組んでいる「毎月ゼロのつく日（10日・20日・30日）」を、「とくしま環境の日」としました。また、その月ごとのテーマを次のように決めて、その月の主要テーマとして取り組んでいただく目安としています。（その月は、そのテーマ以外の取組はダメと言うことでは、もちろんありません。）

（月ごとのテーマ）

- 1月：環境にやさしい暮らし（エコライフ）について考える
- 2月：省エネルギーについて考える
- 3月：環境にやさしい製品の使用について考える
- 4月：豊かな緑の保護について考える
- 5月：ごみゼロの社会について考える
- 6月：自然エネルギーの利用について考える
- 7月：夏のエコスタイルについて考える
- 8月：清らかな水の保護について考える
- 9月：身近な生き物との共生について考える
- 10月：リデュース、リユース、リサイクルについて考える
- 11月：エコドライブ、公共交通機関の利用について考える
- 12月：冬のエコスタイルについて考える

自然生態系と社会経済系



3. 「とくしま環境の日」の普及啓発

徳島県内の産・学・民・官（140団体）が、協働して環境問題に取り組んでいる「とくしま環境県民会議」を中心に、「とくしま環境の日」の普及啓発を推進しています。

県民の方々に「とくしま環境の日」を知っていただき、「毎月ゼロのつく日は環境問題について考える日」として普及するとともに、様々な環境に関するイベントをゼロのつく日に集中的に実施いただき、盛り上げていきたいと考えています。

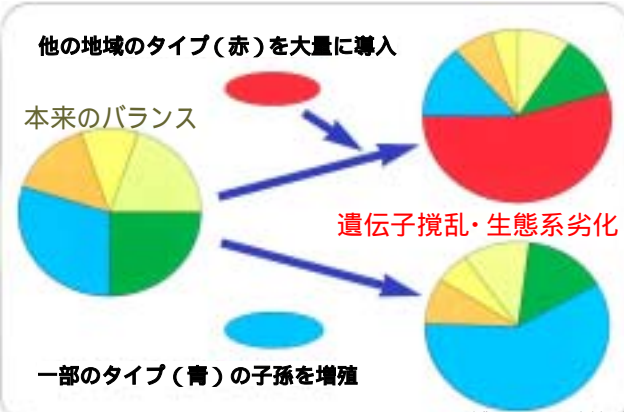
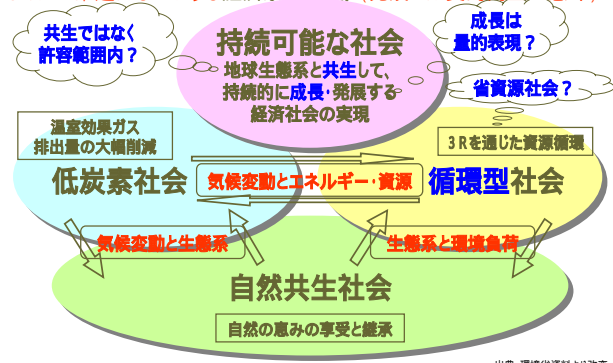
4. 初めての取組み

「とくしま環境の日」は今年4月からの設定であり、この最初の月の大きな取組みとして、平成21年4月30日（木）に、徳島市内の徳島グランビリオホテルにおいて、榎本幸実さん（徳島県ビオトープアドバイザー）を講師にお招きして、県内の各界から100名弱の方にご参加いただき、講演会を行いました。

御講演は「豊かな緑の保護について考える～未来に向けて問われる緑の質～」と題して行われ、「現代社会は、緑の質と機能が問われる時代であり、地域の生態系の基盤となる緑を保護・再生するために、国土と緑の将来像を描き、未来へとつないでいくことが大切である」とのお話を伺い、初めての取組みとして盛会に開催されました。

今後とも、「とくしま環境の日」の普及啓発を通じて、様々な環境活動が一層盛り上がることを願っていますので、皆様の御協力をよろしくお願ひします。

持続可能な開発：生態系の資源再生能力と廃棄物吸収能力を、将来にわたって、超えないような経済系の発展。（発展とは質的向上の意味）



ピオトープ・サロン 寄稿コーナー

寄稿：篠原幸代（読者）

【ミミズのカーロ】

ピオトープ関連と言えるかどうか微妙ではありますが、ドイツでの取り組みを紹介した「ミミズのカーロ」という本を数年前に読んで、先日その本をふと思い出した。頼りない記憶を頼って、ではありますが、色々と考えさせられる良い取り組みなので紹介させていただきます。

ミミズコンポストは環境先進国ではよく知られているようですが、日本ではまだまだあまり馴染みのない言葉だと思います。シママミズを土が入った容器に入れて、生ゴミを堆肥化する方法のことです。

ドイツではミミズコンポスト容器を教室に置いて、カーロ（ミミズたちの名前）は何が嫌いで何が好きだろうという実験をするために容器の中に、カーロが好きな野菜クズや果物や落ち葉の他に、消しゴムやビニール、ガラスなどカーロが食べない物をわざと入れて子供達に観察させるそうです。その観察から、ミミズの役割だけでなく、ミミズが分解できないお菓子の袋や缶などのゴミはポイ捨てしたらいけないことを自然と学ぶようです。それから、カーロを可愛い絵にして算数などの教科書に取り入れて、ミミズのカーロが子供達に自然に馴染み、環境を考えることが特別なことではなく普通に楽しくできるように工夫されているそうです。そして、カーロが作った堆肥で花や野菜を育てるそうです。なんて素敵な環境教育だろうと思います。

水の多い生ゴミを燃えるゴミとして出すことで、ごみ収集車の燃料と燃やすための燃料を無駄に使って、最終的に埋め立てゴミすることに抵抗があったので、数年前から畑の隅に生ゴミや花や野菜の残渣を、掘った穴に入れているとどこからともなくシママミズが集まってきて大繁殖しながら分解を始め、良質の堆肥に変えてくれています。そこで、改めてミミズコンポストを置いて身近で観察してみようと思い立ちました。

台所の隅に容器（植木鉢）を置いて300匹くらいのシママミズを捕まえて生ゴミを入れて2週間くらいになりますが、カーロが環境に馴染んだようで、生ゴミを食べ始めているようです。時々、容器を覗き込んで土を掘って、カーロや生ゴミの様子を観察するのが楽しい！（カーロにはきっと迷惑ですが・・・）まるで、観察日記を嬉々として書いていた小学生の頃に戻ったようです。

その話を特に女性にすると、たいてい「気持ち悪い～！」が第一声です。ドイツのように、日本でもミミズが馴染みやすいように子供の頃から教育されていれば、気持ち悪いと感じにくくなるでしょうね。これって、とっても大事なことだと思っています。

それから、日本の大地は豊かで種々様々な野菜が育つけれど、野菜クズや庭の剪定枝など自然の物を土に返さずにゴミとして焼却処分していると、いずれ土が痩せて現在のように多くの種類の野菜を育てられなくなるだろう、と何かの本に書かれていたのが印象に残っています。豊かな大地と自然を貧しくするかしないかは、ほんのちょっとした知恵と工夫でなんとでもなることだと思いつつ・・・なんて難しいことだろう・・・とも思います。

ミミズコンポスト で検索すると詳しく調べられますので、ご興味のある方はぜひどうぞ。

ピオトープ・ナビ Q&Aコーナー

記者：犬伏潔（会員）

【Q（質問） Mさん】

学校ピオトープとピオトープの違いとは？

【A（回答）ピオトープの意味は同じ】

学校ピオトープとは、学校内に地域の自然を再生又は創出することで、子どもたちが日常的に身近な自然に触れ合える場や機会をつくり、未来を担う心豊かな人材を育てることを目的としています。また、都市に失われた地域の自然を学校に再生したり、復元したりすることは、都市で分断された自然を飛び石的につなぐということも大きな役割としています。

このことから、日本ピオトープ管理士会徳島支部では、「自然と共存する社会と人が育つ場所」と位置づけ、次の十箇条を提唱しています。

- 一、学校ピオトープは人が育つ場所
- 二、活動はまちづくりへの第一歩
- 三、いろいろなつながりを考える
- 四、いつまでも継続する体制を考える
- 五、地域の自然をお手本にする
- 六、生きものの暮らしと場所を考える
- 七、地域にある自然の材料を用いる
- 八、生きものが自然に訪れるのを待つ
- 九、学校全体で取り組み教科に生かす
- 十、地域と連携で育て活かし広げる

ピオトープ・ナビ 雑学コーナー

記者：榎本幸実（会員）

【環境教育の本末転倒の話・・・ねらいをしっかり！】

ある学校での話・・・学校から帰ってきた子どもがお母さんの顔を見るなり泣く。「どうしたの？」と聞くお母さん、「空き缶を持っていかなかったので、先生に叱られた」と子ども。よく聞くと、その学校でリサイクルの環境学習、先生は「家から空き缶を持ってくるように」と課題を出したそうです。環境問題に関心が高いお母さんは、缶入ジュースなどの製品は買わない主義でした。当然ながら家に空き缶などありません。空き缶を持たずに行ったら「空き缶が無いはずないでしょ！忘れたのでしょ！」と先生は叱ったそうです。ずいぶん前のことですが、この話を娘にして「お前ならどうする？」と聞きました。すると、「缶ジュースを買って飲んでから持って行く」と・・・唖然とする私。しかし、この学校の児童の多くも同じことをしていたのかもしれませんが。

また、ある学校で「ゴミを減らそう！食べ残しの堆肥化」と銘打つ総合学習でのことです。「お母さん、魚の切り身を買って来て」と子ども・・・訳を聴くと、「総合学習のゲストティーチャーから『植物性ばかりだと良い堆肥は作れない、肉や魚の切り身を入れたほうが良い』と教わった。」とのこと。いつの間にか、「環境学習と食育」の総合学習から「良い堆肥の作り方」にすり替わってしまったようです。これらは話のごく一部のことだと思いますが、環境教育の現場では「目的」と「手段」を明確にして取り組む必要がありそうです。

篠原さんの「ミミズのカーロ」の紹介、つまりは、「何を伝えるのか」を先生方がきちんと理解していると言うことですね。

編集後記

ピオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の活動やお仕事、日常生活を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください。 編集：榎本幸実